

1

もう一度チャレンジする

今、社会はどうなっている？

女性が働くことがあたりまえの時代に

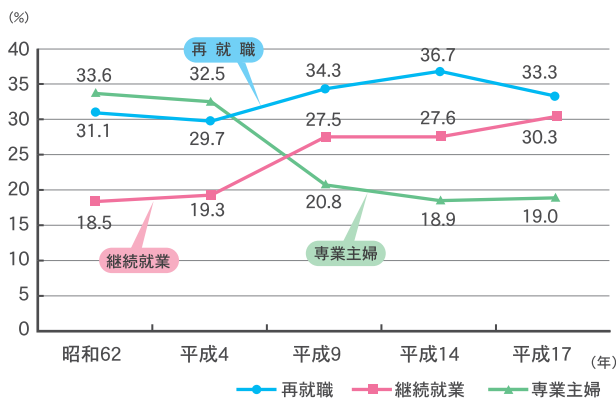
働きたいと考える女性が増加

未婚女性が理想とするライフコースは、再就職(結婚・出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持つ)が31%から33%に、継続就業が19%から30%に増えており、働きたいと考える女性が増えていることがわかります。(図1)

子育て等を終えた女性が再チャレンジ(再就職、起業等)を希望する理由は、生活費を得るため、自分の成長のため、充実感を得るため、能力や資格を生かすためなどさまざまです。(図2)

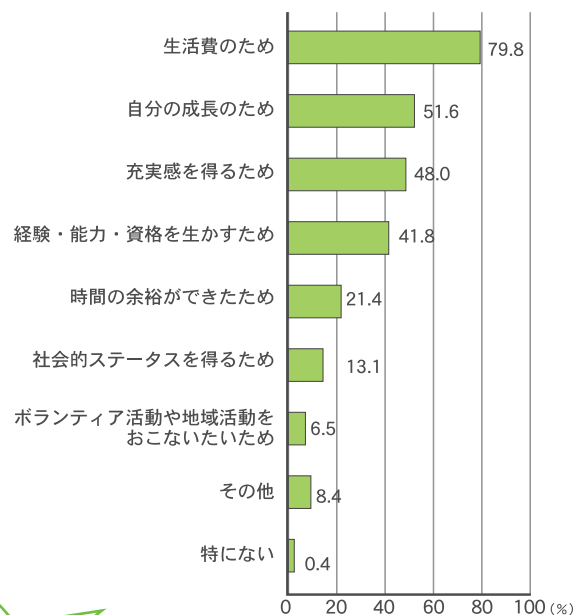
継続就業や再就職
を理想としている
女性が増えています。

図1 未婚女性が理想とするライフコースの推移



[備考] 1. 国立社会保障・人口問題研究所「出産力調査」、「出生動向基本調査」により作成。
2. 「あなたの理想とする人生はどのタイプですか。」という問に対する回答の割合。
3. 専業主婦:結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない。
再就職:結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ。
継続就業:結婚し子供を持つが、仕事も一生続ける(原文では「両立」)。
4. 回答者は、全国の18~34歳の未婚女性。

図2 再チャレンジしたい理由



[備考] 内閣府「再チャレンジ事例分析調査」(平成21年3月)より作成。

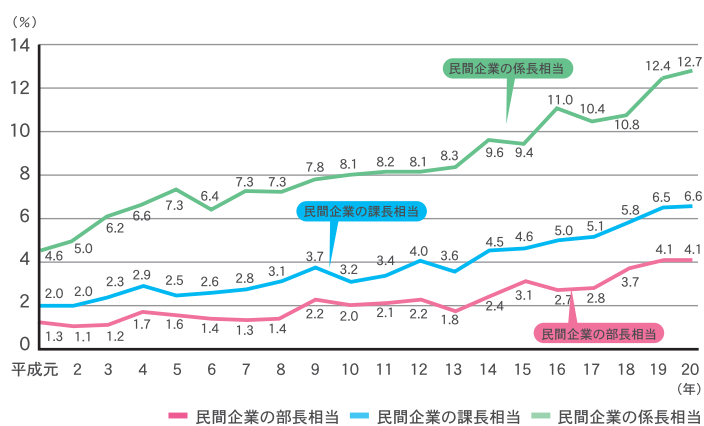
生活費のため、以外にも自分の成長のためなど、もう一度働きたい理由は様々です。

働く女性への期待

働く女性に対する期待が社会的に高まっています。グローバル化や価値観の多様化が進むなかで、多様な個性・視点を持つ人材が能力を発揮することが求められています。また、少子高齢社会を迎えて労働力人口が減少していくなかで、女性を積極的に採用し、管理職に登用する企業も増えています。(図3)

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に配慮して、仕事と子育てや自分のやりたいことを両立できる働き方ができるような環境を整える企業も増えてきています。

図3 民間企業の役職別管理職に占める女性割合の推移



仕事と子育てを両立できる環境を整える企業も増えていますが、働く女性が管理職に占める割合は全体から見ると、少ないことがわかります。

いろんな働き方があります

正社員以外にも、子育てとの両立がしやすいパートで働く、起業するなど、いろいろな働き方があります。働き方によって安定性や拘束時間などが異なります。再チャレンジするには、自らの希望や現在おかれている状況などを考えあわせて、最善のプランを描き、準備することが大切です。男女共同参画センターやマザーズハローワーク、NPOなど再チャレンジを支援する機関・団体等を上手に利用するとよいでしょう。



女性と仕事～わたしの場合～

これまでに、再チャレンジを実践した多くの先輩たちがいます。

希望どおり再就職して充実した生活を送っている人も、起業を成功させた人も、特別な人ではありません。みなさんと同じような悩みを抱え、壁にぶつかり、それを乗り越えて再チャレンジを成功させました。

みなさんもぜひ、希望する再チャレンジを成功させてください。

働いて身についた力がわたしの財産

早野 すみれさん(有期契約職員)

かつて〇しだったころ、簿記1級、珠算1級、記憶力を生かして、主に営業事務の仕事をしていました。結婚退職しましたが、その後DVや虐待があり、子連れで家を離れ、離婚しました。専業主婦11年。

体調も厳しかったのですがまずは週2日のパート勤務から、新しい人生をスタートしました。その後、利用していた公共施設でご縁があり、フルタイムアルバイト勤務2年。2年目はスキルが上がり、お給料も少し上がりました。子どもの心のケアが必要となり、児童相談所の協力を得て、子どもを見守りながら次の職を探しました。公的支

援に関連する職場で、有期契約職員として1年半働いています。

業務の過密、人間関係などいろいろ辛い時期もありましたが、働き続けてきたのは、子どもを食べさせなければという経済的な理由に加えて、いろいろな専門的支援について知識を得て、経験をもっと積みたかったからです。学歴や資格がないことで悔しい思いをすることもありました。しかし、自分を知る努力をし、足りない部分(ギャップ)は自分から埋めていく努力を惜しまず、前向きに働くことで、確実に新しい知識や技術などが身についていることを実感しています。それが、今の私の自信につながっています。

現在の職場では更新最長3年でしたが、組織体制の見直しがあり、それより早く期間満了になるかもしれません。それでも、私を必要としてくれる職場にめぐり会えるまであきらめず、求め続けようと就活に励んでいます。



好きで得意なピアノの先生から、行動して仕事のご縁をつなげる

山本 よう子さん(ピアノ教師、音楽講座講師)

音楽大学を出て、結婚前からピアノ教室のアシスタントをしていましたが、出産でいったんリタイア。その後、夫の体調不良から経済的な自立を考えざるをえなくなりました。しかし、教室を再開しようとしても生徒数も増えず、再就職試験にも通らず、不安でした。

あるとき音楽団体の800人規模のイベントで、元上司の助手を依頼されました。私が他の人に比べて仕事の経験が長かったこと、休業中に講座の企画運営のボランティア活動をしていたのでイベント運営のポイントを把

握していたこと、自分で考えて役立つ資料をどんどん作成していったことなどが重宝がられたのだと思います。

その後は、生徒さんや仕事上で関わった方が人づてに次の仕事を紹介してくださるのが特徴です。個人レッスンなどは1対1ですので、突然大当たりの収入もさしてないかわりに、この職種にしては安定した収入を得ていると思います。

現在はピアノ個人レッスン、初期学習者向けグループレッスン、音楽メソッドを伝える講座の講師業などに仕事の幅が広がりました。ご縁があった中には何年も続けて講師として呼んでくださる団体があり、くり返し来てくださるお客様もいらっしゃる、私の自信になっています。少しでも、税金も払うようになりました。



「料理活動家」としてグループを主宰、企画と人の輪を広げる

ヤナセ イオコさん(料理活動家)

再就職への足ならしに、コンビニの早朝アルバイトを始めました。短期のパソコンスクールにも通いましたが、パソコンを武器とするのは自分には無理と早々にあきらめ、好きな料理でこれまでにない仕事を作っていこうと決意しました。

短時間でできるオリジナルメニューを開発し、あちこちの知人に試作品を配り、人が集まるときがチャンスと、オリジナル菓子を差し入れする営業活動を開始。再就職講座修了者の会の自主サロンでは「ぱぱっとごはん」企画を主



催し、会のホームページで「夏休みの子どもとつくる40日間レシピ」コーナーももち、好評をいただきました。このころ、自分の仕事を「料理活動家」と命名し、自宅料理教室、講座出前、パーティ料理ケータリングなどいろいろな活動の総称をsnow frake mama café(スノーフレイクママカフェ)と決めました。

コンビニでのバイト経験から、若い男性とのコミュニケーション能力があると自己診断し、「めざせイクメン!クッキングサロン」を企画。公共施設で採用され、実現します。

講座修了者のネットワークの世話人もしています。私はそこでたくさんの魅力あふれる女友だちをつくり、世代を超えた友情をはぐくんでいます。起業家をめざす女性たちのセミナーにも顔を出し、メーリングリストにも入りました。楽しみながら、みなさんに「おいしい」をお届けしながら、人も自分の仕事もハッピーにできたらと思っています。

ネットショップ立ち上げの経験を生かし、起業。

墨田 万由子さん(起業)

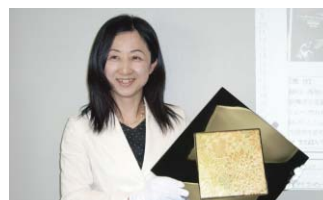
いまから7年前、専業主婦生活にピリオドを打ち、司法書士事務所で週2日のパート勤務を始めました。簿記2級を取得。勢いに乗り、税理士試験に挑戦しましたが、あえなく撃沈。悩んでいた時期に、新聞の折込広告で徒歩1分の距離に高級洋食器メーカーの営業事務職の募集を見つけました。当時働いていた正社員ではなく契約社員でしたが、再就職講座中に聞いた「実務経験が大事」ということばを思い出しました。元々陶器が大好きだったこともあり、転職しました。

催事企画や顧客管理事務などを経て、5年たった現在はネットショップの立ち上げから販売企画、撮影、日々の運営、特別顧客クラブの運営企画事務など責任のある業務を任されています。

親の介護も終わったころ、IT起業セミナーを受講し、2009年現在は週末起業の形で、漆塗オリジナル・アート額

販売事業を行っています。自分は何をしたいのか、何ができるのか。みなさんからのアドバイスをいただきながら何度も練り直した結果が現在の事業です。

今ではやってきたことがすべてつながり、役に立っています。無駄なことなど何もなかったのです。歩みのゆっくりな私ですが、手を抜かず歩んできてよかったと感じています。これからも、どんどん進化してゆく自分とビジネスをめざしています。

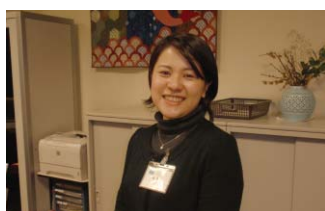


NPOスタッフとして女性センターで働く

堀 紀美子さん(NPOスタッフ)

女性センターの電話相談や法律講座、再就職講座などを活用し、長い専業主婦期間をのりこえて、ひとり親家庭を子ども2人とスタートさせました。

若いときに塾教師で働いていた経験から、塾の教務の仕事を見つけ、パートから社員にしてもらって1年ほど続けました。つらい時期もありましたが、自分で選ぶということを学んだことは貴重でした。



その後首都圏から実家のある名古屋に帰って、派遣社員として営業事務の仕事をしました。時給はよかったのですが、年齢的にも40代になって、ずっと続けていける仕事、キャリアを積んでいける仕事をと考えるようになりました。

紆余曲折を経て現在、NPOが指定管理者として運営する女性センターの常勤スタッフとして、受付サービスやウェブでの記事の執筆、事業企画・運営の業務を行っています。日々いろいろな人とふれあう仕事は性に合っていると感じます。

NPOでは大学生から70代の方までがスタッフ仲間、年齢にかかわらず日々それぞれのチャレンジをしながらイキイキと働いています。「終わりはないんだな」と思って働けることはよろこびです。かつての私のように、悩んだり迷ったりしている女性たちの役に少しでも立てれば、と願っています。